

芦屋市立潮見中学校 3年 部長

3月、コンクールが中止になるなんて、夢にも思っていませんでした。コンクール出場は私たちの当たり前で、無くなるものなんかじゃないと思っていたからです。そして4月、吹奏楽以外の数々の大会の中止の知らせを耳にしました。コンクールに限ってそんなことは無い！と表面上では思っていたものの、心のどこかで、中止になるのではとも思ってしまうしていました。そして5月、ついにコンクール中止の発表があり、私はこれから何を目標に、何のために活動していけば良いのか、答えを見つけることが出来ませんでした。

しかし、活動が再開され、1年生も入ってくれた今、私たちにはやるべきことが出来ました。後輩たちを立派な先輩にするというもの私たち3年生の仕事です。後輩の模範となり、道すじを示していかなければなりません。

そして、吹奏楽を競う場が無くなった今、吹奏楽を楽しみ、その楽しみを伝えていくことも私たちの役割だと考えています。

報徳学園中学校・高等学校 3年 副部長 パーカッション

コンクールという舞台は日々の目標でもあり、部員のみんなとの日頃の生活や練習の中で意見をぶつけ合いながらも切磋琢磨し、共に得た経験を演奏という形で思いっきりぶつけることができる集大成の場です。ですが、今年は中止となってしまい、演奏を思いっきりぶつける場がなくなってしまいました。さらに、これからどうすればよいのかと不安にもなりました。

6月に部活が再開し、また部員のみんなと一緒に演奏することが出来るようになりました。一緒に演奏する中で、今までの経験をどんな形であれ、伝えたいなという気持ちになりました。大きな目標であるコンクールはなくなってしまいましたが、だからといって今まで得た経験はなくなるものではないと思います。今はなかなか難しい状況ではありますが、諦めずに良い演奏を一人でも多くの皆様にお届けできるように、日々努力していきたいと思っています。

県立篠山東雲高等学校 3年 部長 アルトサクソフォン エレキベース

私達は昨年初めてコンクールに出場しました。他校に比べ部員数が少ない私達にとって大舞台での演奏ができ、吹奏楽部としての大きな第一歩になりました。「今年も頑張ろう」と意気込んでいた矢先、帯広農業高校への友情応援等の行事や演奏会、そしてコンクールの中止を聞き、私も部員もそれぞれに戸惑いやショックを受けました。しかし、これらコロナ禍での活動休止が篠山東雲高校吹奏楽部の原点を見つめ直す良い機会になったと思います。私達は「地域に愛されるバンド」をモットーに様々なイベントや行事に参加し、地域の方々と交流を深めてきました。だからこそ今、私達ができるのは、重たい空気が漂い暗くなってしまった街を元気にする事だと考えています。そのために現在は、秋の第2回定期演奏会や福住祭(学校祭)に向けて、日々練習に励んでいます。私達ができる事は限られていますが、「音楽の力」で精一杯、取り組んでいきたいと思っています。

三田市立狭間中学校 3年 副部長 フルート

昨夏から目標としていた「金賞受賞」そして「県大会」「関西大会」出場。それに向かって部員一丸となつて、毎日練習してきました。しかしコンクールが中止となり、その目標を果たせなくなったこと、そしてこのメンバーでコンクールの舞台を踏めなくなったということを知ったとき、自分でもどうしようもない悲しみや悔しさでいっぱいになりました。ですが、仲間や顧問の先生の「このメンバーで最高の一年にするということとは変わらない」「このことをプラスにできるかどうかは自分次第」という言葉を受けて、落ち込んでばかりではなく、前を向いて進んでいくべきだという気持ちになりました。

今は、部員全員で「最高の一年にしたい」という気持ちで練習しています。再び心をひとつにして練習できていることがとても嬉しいです。全員で演奏できる感謝を忘れずに、残された日々の中で精一杯活動していきたいです。